

## 神の国と政治

イエスは神の国を造ろうと思って、社会を作り替えようとした。社会に貧富の差など多くの問題があり、イエスはその社会を作り直したいと思った。この為に政治的な支配者とぶつかり最後に処刑された。よくあることだ：ガンディー、キング牧師、エルサルバドルのロメロ大司教もそうだった。

勿論の事だが初代教会キリスト教はローマ帝国の神々を認めなかった。長い間迫害された。しかし4世紀に皇帝コンスタンチヌスはキリスト教を公認してキリスト教はローマ帝国の国教となった。それでキリスト教の司教はローマ帝国の役人となることもあった。

その時に初めて司教や司祭は特別な服を着るようになった。その後キリスト教とローマ帝国、宗教と政治は一つとなった。それは神聖ローマ帝国というものだった。皇帝は神聖ローマ皇帝と呼ばれるようになった。

いろんな面白い事があった。それから植民地の時代に教皇が南アメリカを二つに分けた。東はポルトガルに、西はスペインにあげた。今でもバチカンという国がある。バチカンは多くの国々に大使を送っている。多くの国々に大使館を建てている。日本も大使をバチカンに送っている。教皇は頻繁に国の支配者と会っている。

他方、教会は様々な社会問題を直して神の国を実現したいと思っている。そのために教会は色々な社会的回勅をだしている。日本の司教団も2012年に脱原発に関して短い文章を発表した。

教会は神の国の実現の為に働いているが、特定の政党を支援していない。神の国の実現の為に政策に賛成する。神の国の実現の妨げになる政策に反対する。例えば自民党のある政策に賛成、他の政策に反対するかもしれない。同じように民主党、社民党、共産党の一部の政策に賛成し、他の政策に反対するかもしれない。これは**政教分離**と呼ばれる。政教分離とは、教会が社会の様々な活動に参加しないという意味ではない。

出エジプトと十戒を勉強した時に皆さんは気がついたと思うが、イスラエル人（ユダヤ人）にとっては政治と宗教には区別は無かった。人生の総ては神様と関連している、総ての立法、法律は信仰の立場から作られなければならないとイスラエルの人々は思った。インドのガンディーさんが言っていた事だが、宗教と政治は関係ないと言う人々は宗教の本当の意味を理解していない。

神様は別紙の図を見たら解るかもしれないが、神様は宇宙・地球の総てをお造りなされた。神様と関係の無い事は一つも無い。しかしイエスの時代と同じように、ある人は神の国に反対する、実現して欲しくない。社会の支配者、権力者など、現状維持で教会の社会的活動を止めさせようとするところがある。

また、南アメリカの有名な教育学者が言った事だが、黙る事さえ、行動しない事さえ、政治的な行為となる。現状維持となるという事だ。

## エクササイズ

## 次回のセッションの準備として

「キリスト教以前のイエス」	第十四章	神殿での事件
	第十六章	苦しみと死の役割
	第十八章	裁判について